

世界展開力強化プログラム報告書
神戸大学医学部医学科6年生 山口尊
派遣先：タイ マヒドン大学シリラート病院
派遣期間：2014/4/7-2014/5/1

2014年4月7日から5月1日までの約1か月の間、タイのバンコクにあるSiriraj病院で実習をさせていただきました。

Siriraj病院は1888年に創立されたタイで最も歴史の古い病院であり、また約2300の病床を有するタイ最大の病院でもあります。病院の敷地内には内科・外科などの各病棟、図書館やフードコート、学生寮、スーパーや銀行などもあり、各建物の間には公道も走っているので病院自体がまるで一つの町のような感じでした。病院のすぐそばにはチャオプラヤ川が流れており、毎朝多くの患者や職員が船で川を渡ってくるという珍しい光景が見られることもSiriraj病院の特徴です。私が1か月過ごすことになったゲストルームは新しく出来たばかりのきれいな建物の11階にあり、毎朝メイドさんが部屋の掃除やベッドメイキングをして下さったので非常に快適に過ごすことができました。

私は最初の2週間は外傷外科(Trauma surgery)、次の2週間は形成外科(Plastic surgery)で実習を行いました。まず驚いたことはタイの医学生のレベルの高さでした。タイの学生は5年生から毎週当直実習を行っており、6年生は患者の問診から薬剤のオーダーに至るまで、まるで日本の研修医のような働きをしていました。タイでは医学用語の殆どにおいて英語が使用されており、学生が実習中にとっていたメモも英語とタイ語が半々という感じでした。日本人の学生が実習に参加する時は先生方も英語で講義をして下さいましたが、タイの学生は全く問題なく講義に参加していました。英語がそれほど得意でなかった私は最初、講義についていくのも大変でしんどい思いもしましたが、親切な先生方やタイの学生の助けを借りてなんとか実習を乗り切ることができました。

外傷外科では熱傷患者の病棟回診や手術見学を主に行いました。外傷は日本と比べると交通事故の患者が多いようでした。タイには日本のように厳しい交通ルールがなく、シートベルトやヘルメットを着用していなかったり、定員オーバーの自動車やバイクが多いことが理由の一つだと思われます。それ以外は日本と大きくは変わらないように感じられました。

形成外科では手術見学、外来見学を主に行いました。外来見学で驚いたのは再建などの一般形成の患者と美容目的の患者に全く仕切りがなかったことです。褥瘡の患者を診た次に鼻を高くして来た患者を診ることなどもありました。美容目的の患者もオープンな場所で問診を行っていましたが、患者も特に気にしていませんでした。このプライバシーに寛容なあたりも日本とは異なっていて面白いなと感じました。私はタイの形成外科なら性転換手術を見れるのではないかと密かに期待していましたが、先生によるとSiriraj病院では年に3件ほどしか行っていないようでした。

外科での実習は午前中に終わることが多く、また4月にはタイのお正月休み(ソンクラーン)もあったため自由な時間が沢山ありました。放課後や週末にはタイの学生に色々な場所を案内してもらったり、他国・他大学の学生との交流、パタヤビーチやアユタヤなどの観光、カンボジアへの旅行なども行い、非常に楽しい時間を過ごせました。

今回の実習において二つだけ反省したいことがあります。一つは医学英語の勉強が不十

分だったせいで実習中に戸惑うことが多かったこと、もう一つはタイにいる間にもっとマンゴーを食べておけば良かったということです。もち米やバニラアイスと一緒に食べるマンゴー(Mango with sticky rice)は本当に美味しかったです。いつかまたタイを訪れた時はこれらの反省を活かして楽しみたいと思います。

最後に、久野先生を始めとする私にこのような素晴らしい機会を与えて下さった方々、タイで私を助けて下さった Siriraj 病院の先生や学生、その他お世話になった多くの方に感謝を伝えたいと思います。有難うございました。

